

01-4.「環境」のH14年度本試験問題

コード	大項目	小項目	問題	解説	解答
14011	環境	温熱感覚	椅座位の場合、くるぶし(床上0.1m)と頭(床上1.1m)との上下温度差は、5℃以内が望ましい。	椅座位の場合、くるぶし(床上0.1m)と頭(床上1.1m)との上下温度差は、3℃以内が望ましい。(この問題は、収録過去問題に類似しない新出問題です。)	×
14012	環境	温熱感覚	全身温冷感が中立状態に保たれていても、局所温冷感に係わる不快要因が存在すると快適な状態とはならない。	人間の温冷感、気温、湿度、気流、輻射(放射)の他、着衣量、代謝量等の影響を受ける。また、全身温冷感(全体的な温冷感)が中立状態に保たれていても、局所温冷感(局所的な温冷感)に係る不快要因が存在すると快適性は損なわれる。(この問題は、収録過去問題に類似しない新出問題です。)	○
14013	環境	温熱感覚	気流の乱れの強さが大きいと、平均風速が低くても不快に感じることもある。	室内では、気流速度を0.1～0.3m/sとすることが望ましい。また、平均風速が低くても、気流の乱れの強さが大きい場合には、不快に感じることもある。(この問題は、収録過去問題に類似しない新出問題です。)	○
14014	環境	温熱感覚	床暖房時の床表面温度については、一般に、29℃以下が望ましい。	床暖房時の床表面温度が人間の体温(36℃)程度に上昇すると、低温やけどを引き起こす危険性がある。そのため、床暖房時の床表面温度については、一般に、最高温度を29℃以下に設定することが望ましい。(この問題は、収録過去問題に類似しない新出問題です。)	○
14015	環境	温熱感覚	冷たい窓や冷たい壁面に対する放射の不均一性(放射温度の差)の限界は、10℃以内である。	冷たい窓や壁面に対する放射の不均一性の限界は室温と10℃差以内、上下方向で5℃以内とされる。(この問題は、収録過去問題に類似しない新出問題です。)	○